

成長するソーシャルゲーム市場を牽引するDeNAが 個人情報の保護とIT統制強化のため選択した内部セキュリティ対策

DeNA は、1999 年に設立された、プラットフォーム、ソーシャルゲーム、e コマースなどのインターネットサービスを中心に様々な事業展開をしている企業です。

ソーシャルゲームプラットフォーム「Mobage」では、多数のソーシャルゲームが日本、欧米、中国、韓国などのユーザネットワーク向けに提供されています。

また、無料通話アプリやスマートフォン向け音楽プレイヤーなど、新しいサービスも次々と立ち上げています。近年、プロ野球への参入や陸上チームの創設などのスポーツ分野を通じて積極的に社会参加も行っています。現在、世界 10 カ国にオフィスおよび開発スタジオを有しています。(http://dena.com)

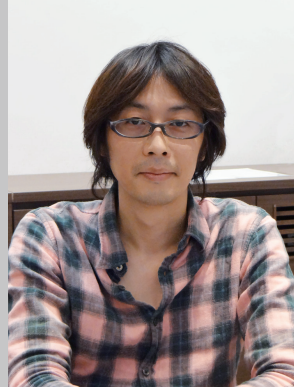
Profile

株式会社 ディー・エヌ・エー (DeNA)

設立 1999年(平成11年)3月4日
本社所在地 東京都渋谷区渋谷 2-21-1
渋谷ヒカリエ

URL http://dena.com
事業内容 DeNA は 1999 年に設立された、Mobage などのインターネットサービスを展開している企業です。

< 導入製品 >



システム統括本部 IT基盤部
ネットワーク&セキュリティグループ
グループリーダー
鳥越 昇氏



システム統括本部 IT基盤部
ネットワーク&セキュリティグループ
渡會 拓馬氏



システム統括本部 IT基盤部
ネットワーク&セキュリティグループ
谷口 崇典氏

課題と 選択

内部統制の高度化とセキュリティ強化を検討

✓ 内部統制の高度化と内部不正に対するセキュリティ強化が課題に

DeNA では社内系システムと呼ばれるシステムが勘定系やワークフローといった社内の業務全般を支えています。社内系システムは Windows や Linux をはじめ、各種アプライアンス製品など個々の業務に応じた機器で構成され、システム全体では 200 ~ 300 台ほどの物理マシンが稼働しています。

「社内系システムには個人情報を扱うシステムが多く存在します。そのため大きな情報漏洩など、今後起こりうる事象に対するリスクマネジメントとして、対策が必要だと感じていました」(渡會氏)

こうした課題に対応するため、DeNA では内部統制の高度化とデータの改ざんなど内部不正に対するセキュリティ強化を目的に、システムの運用管理者が行う作業の内容を詳細に記録する製品を探していました。

✓ 与えられた権限の範囲内で行われる不正を防ぐには？

DeNA では ESS REC の導入以前から内部統制や内部不正に対するセキュリティ対策の一環としてアクセス制御や操作証跡の取得などを組み合わせた複合的な取り組みを実施していました。

「ESS REC の導入以前から、運用管理者別の詳細なアクセス制御は当然の対策として実施していました。しかし適切に与えられた権限に対しては、その権限の範囲内で行う作業を禁止することはできません。そのため私たちは、与えられた権限の範囲内で不正が行われるリスクについて危惧していました」(渡會氏)

同様に操作証跡の取得に関しても、有事の際の原因究明に利用するという目的もあり、作業や作業内容に例外を設けず、必ず操作証跡を記録するという社内的なルールが存在していました。しかし記録の精度が社内ですべて統一されておらず、すべての作業について詳細な操作証跡を取得する必要性を感じていました。

こうした時期に紹介を受けたのがエンカレッジ・テクノロジーの ESS REC です。ESS REC 最大の特徴である動画形式の記録は、あらゆるシステム操作の詳細な操作証跡の取得を求める DeNA にとって非常に魅力的でした。

「社内系のシステムには Windows サーバーが多いため、GUI の操作をはっきりと確認できる動画形式の操作証跡が取得できるという点は大きかったです。また ESS REC の動画形式の記録であれば、コマンドを打った、どのサーバーに接続したという記録にとどまらず、コマンドに対してどのような結果が戻ってきたのか、接続したサーバーでどのような操作をして、どのような情報が取り出された可能性があるのかも確認できます。ESS REC は作業の一挙手一投足を記録したいという私たちの要件を満たしていました」(渡會氏)

また秘密鍵を利用した ESS REC の記録の保存形式は、職務分掌の観点からもよく考慮されており、魅力を感じています。この仕組みを利用すれば、システム管理者が ESS REC の記録に対して管理者権限を有している場合でも、秘密鍵を与えなければ記録の再生・確認を防ぐことができます。操作証跡を記録しながら、こうした職務分掌に対応できる製品はほとんどありませんでした。

導入と 効果

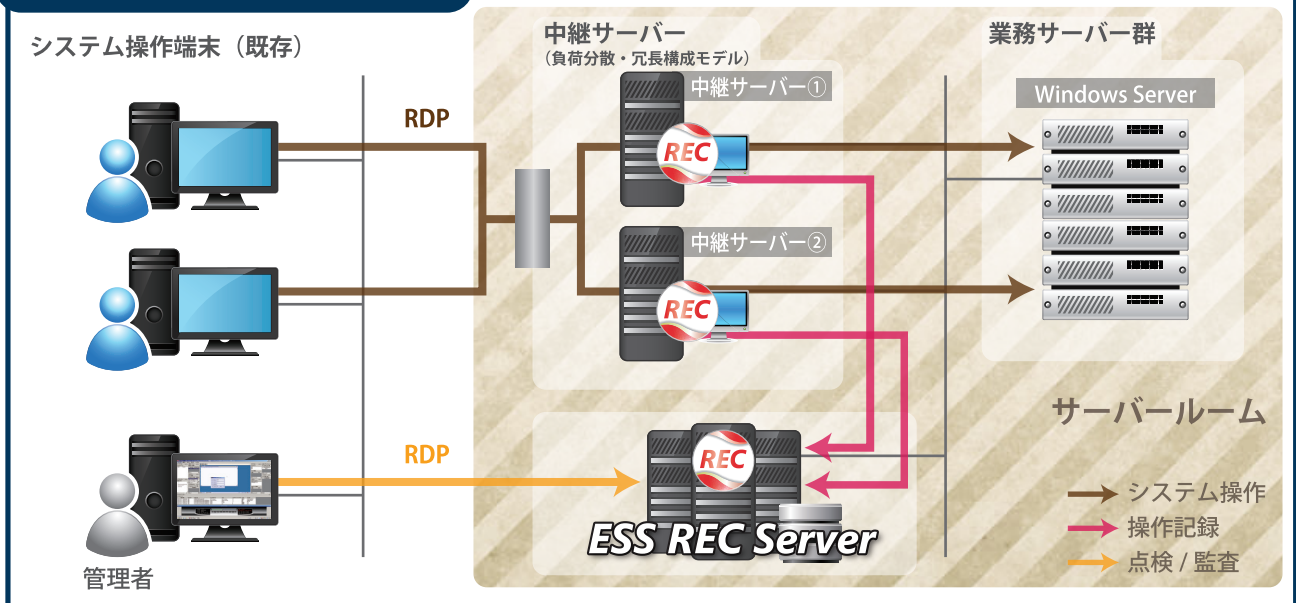
ESS RECの操作証跡が内部統制の高度化とセキュリティ強化を実現

✓ 動画形式の詳細な記録と高い検索性を活かして効率的な原因究明を実現

トライアル期間も含め、ESS REC の導入から運用開始までかかった期間はわずか 4 カ月でした。2012 年 11 月に ESS REC のトライアルを開始し、証跡の取得にかかわる部分を中心としたテストに 2 ヶ月、運用方法の変更に伴う社内の調整に 2 ヶ月をかけ、2013 年 2 月から ESS REC の運用を開始しました。導入前にトライアル期間を設けたことやエンカレッジ・テクノロジーの営業から頻繁にフォローを受けたこともあり、導入後は問題なく稼働し、期待通りの効果を発揮しています。

(裏へつづく)

DeNA における ESS REC 利用構成



「動画形式で作業を記録しているため、作業結果もはっきりとわかります。ヒューマンエラーが生じた際に、ESS REC による動画形式の記録を見返すことで、ミスの原因がすぐに判明し、迅速な原因究明につながったこともありました」（谷口氏）

ESS REC の動画形式の記録は、特定の文字列やオペレーションを検索し、該当箇所だけを確認することが可能です。こうし

✓ ESS REC を内部不正の抑止力としても活用

ESS REC の動画記録は作業内容の確認以外に、内部不正の抑止力という部分でも役立っています。

「ESS REC の導入にあたり、システムの運用管理者には全ての操作証跡を ESS REC で記録することを伝えていきます。ESS REC で詳細な操作証跡が取得されていると意識することで、内部不正の抑止力になればいいと考えています」（鳥越氏）
また現在は、有事の際の原因究明のために利用することを主な目的として動画形式の記録を取得していますが、いずれは ESS REC の検知ルール機能も活用していきたいと社内で検討を重ねています。検知ルールは、あらかじめ特定の操作を指

た機能を利用すれば膨大な操作証跡も効率的に内容を確認することができます。

また万が一、内部不正などによってセキュリティ上、重大な問題が生じた場合には ESS REC が記録した詳細な操作証跡を警察などの機関に提供することも考えています。

定することで、その操作が実行された際にシステムの監視者に対してアラートを上げる ESS REC 独自の機能です。この検知ルールの活用ですが、現在はアラートの精度や効果を最大限高めるためのポリシー策定を社内を進めている段階です。

たとえば、Active Directory に対する不要なアカウント作成や不用意なシステム再起動といった操作に対してアラートをあげるよう設定することで、動画形式の記録を利用した従来の発見的統制だけでなく、予防的統制や、障害発生時の即時的対応が可能になると期待しています。

展開

さらなる内部統制の高度化やセキュリティ強化を目指して

✓ 社内の別システムへの展開も模索

DeNA には社内系システムのほかに、ソーシャルゲームなど実際のサービスを提供するための事業系システムが存在します。業務系システムでも個人情報扱っており、内部統制やセキュリティ面では社内系システムと同等の対策をとる必要性を感じています。

社内系システムと比較すると Linux が圧倒的に多いシステムですが、ESS REC は LinuxOS にも対応しており、Linux 特有のコマンドライン主体のオペレーション内容も詳細に記録することができます。したがって、Windows や Linux といった異なるプラットフォームに対しても、共通の仕組みが活用できる

という点は、適用範囲を拡大していく上で大きなメリットだと感じています。

内部統制の高度化やセキュリティ面の強化に注力する DeNA 様。エンカレッジ・テクノロジーはこれからもこうしたお客様のサポートに努めてまいります。

お問い合わせは

本事例に記述されている内容は2013年4月現在の情報です。
Copyright © 2002-2013 Encourage Technologies Co., Ltd.
記載の会社名・製品名は、一般的に、各社の商標または登録商標です。